

前期課程 3 年、後期課程 4 年 単元名「課題別学習：海（Sea）」（32 時間）

1 単元設定の理由

海を介して人を知り、人を学び、異なった価値からの「生きる力」を育むカリキュラム開発を目的とする。日本は、海で囲まれている島国であり、人と海との関わりには、思想や文化、産業、経済など、その地域の生活と切り離すことができない社会や歴史がある。この授業は、自分が生活している環境と異なった地域社会をベースに、海を介し「海と人との共生」をさまざまな分野（自然、生活、文化など）から探究的に学び、資料、書物の読解（知識や理解の深化、共有）、フィールドワーク（現地での体験学習）、インタビュー（新たな価値の発見）、映画制作（個の固有の創出と協働の学び）を通して、子どもの生きる力を育むことをねらいとする。また、今年度は、昨年度の「海と人との関わりを探る」（次期、学習指導要領を見据えたカリキュラム開発）授業の発展形として、継続的に海洋教育と探究学習、ディープ・アクティブラーニングの可能性を探るものとする。

2 単元目標

「海を介して人を知り、人を学ぶ探究 ー内陸から海と人を考えるー」

この授業は、「海と人との関わり」について、さまざまな学習方法をもって、そこで培われた感性を基に、生徒が感じ、学び、考え、想ったことを、自分に新たに沸き起こった価値として表現し、ことばやイラスト、映像として発信する。授業の成果物としては、個人の自由課題テーマによる一人 1 本のドキュメンタリー映画を制作し、その発展形としてグループの協働制作によるドキュメンタリー映画を制作し、記録/作品とする。

3 単元の評価基準

「よりよく問題を解決する資質や能力」、「学び方やものの考え方」、「主体的、創造的、協働的に取り組む態度」及び「自己の在り方、生き方」等について、授業内で行ったワークシート（ウェビングシート、問いから課題への発展シート、インタビューシート、映画制作ワークシート、他など）、心の表出作品、さまざまな体験学習のまとめの感想、身体表現「ダイナミック琉球」、ドキュメンタリー映画制作過程および完成作品、授業の振り返りから、次にあげる評価基準と照らしあわせて、その実現状況を評価した。

関心	興味・関心	・学習に対して積極的に取り組んでいる
		・自分が成長していくために必要な学習と意識がもてている
		・自分の興味や関心がもてている
意欲	実行力・積極性・創造性	・主体的に意識をもって学習を進めようと心掛けている
		・苦手（消極的）な学習にも粘り強く取り組んでいる
		・問題点を整理し、修正を加えながら取り組んでいる
関係・態度	指導力・コミュニケーション・協調性・社会性・達成感	・学習の際、他者（班内の友人等）との協力・協働ができている
		・自分の役割をしっかりと果たしている
		・相手の立場になって行動できている
		・自分の学習の支援者に感謝できている
思考	課題設定力・企画力・課題解決力	・学習（課題）の目的を理解している
		・自分の周りや体験から学習したい課題設定ができる
判断	情報活用力・価値判断力・評価活用力・相互評価力・自己評価力	・収集した情報を適切に選択し、分析することができる
		・得られた知識・経験・技能を生かせる
		・生徒間の意見交換や相互評価に積極的に取り組んでいる
		・学習を通してさらに調べてみたい新たな課題が見つけれれる
		・相互評価を通じて自分の学習のあり方を深く考えられる
		・他者評価を通じて自分の学習のあり方を深く考えられる

自己表現	整理力・発表力・ 討論力・独創性	・学習のプロセスを整理して、筋道を立ててまとめられる
		・必要に応じて機器等を使い、適切に発表することができる
		・話し合いに積極的に関わり、自分の考えを適切に述べられる
		・自分なりの意見や主張をまとめることができる
		・他者にわかりやすく伝えることができる
知識・理解	知識の獲得・理解 の深化	・学習の目的について理解を深めることができる
		・必要な機器についての扱い方が適切にできる
		・教材の意味を理解し、創造的に知識を広げられる
生きる力	自分の生き方を考 える態度	・学習を振り返り、自分に自信がもてている
		・学習を通してこれからの自分について考えられる
		・自己実現への努力をしようと考えられる

4 単元の指導計画

授業構成を、①学び方を学ぶ、②実際に見て触れて学ぶ、③学びを深める、振り返りからつなげる、④新たな創造からの協働的な学び、とした。以下がその内容である。

①学び方を学ぶ

- ・「海と人と社会」に関わりのあるテーマを主体的に決め、調べ学習を行う（海の役割、生きることと海、経済と海、海の生態系など、人と海との関わりについて、読み・書き・まとめる・発表する）。
- ・「海（Sea）」をテーマにパフォーマンスの身体表現・創作を行う。
- ・映像制作に必要な機材の扱い方、映像制作の知識やルールについて学ぶ。

②実際に見て触れて学ぶ

- ・東京と異なった地域社会に触れ、見て、聞いて、行動し、そして考える。
 - ・現地にて島国の人々のさまざまな海との関わりを探求する。
- ※沖縄で現地の人たちへのインタビュー、記録としてのビデオ、写真の撮影・収録

○沖縄宿泊学習

（一日目）

- ・戦争追体験（糸数壕への入壕、平和祈念資料館の見学）
- ・珊瑚舎スコーレ（夜間中学）と交流会

（二日目）

- ・琉球大学博物館の見学（風樹館の学芸員による案内）
- ・浜比嘉島での塩製造工場の見学、および海水からの塩づくり
- ・うるま市勝連庁舎にて「あまわり浪漫の会」と交流会

※ 中学3年から高校2年生 198名の演技鑑賞および共演

（三日目）

- ・読谷村入村、読谷村民家さんとの交流会、民家家業の手伝い（農業、黒糖作り、琉球舞踊および三線、家畜の世話など）
- ・ドキュメンタリー映画制作のためのインタビューの実施

・読谷村泊

（四日目）

- ・読谷村退村

③学びを深める、振り返りからつなげる

- ・体験から得た自身の価値に対する心の整理と創出を、活字、ことば、イラストから行う。
- ・これまでに記録したメディアをもとにドキュメンタリー映画の構成を考える。
- ・映像記録の編集及び「海と人との関わり」「聞くこと・語ること」「記憶を記録する」をキーワードに一人1本のドキュメンタリー映画を制作する。

④新たな創造からの協働的な学び

- ・事後学習で仲間が制作したドキュメンタリー映画に対し、同様の問題意識（問い）をもった者同士で第2作ドキュメンタリー映画「ふたつの対話」の構成（「前提」「対話①（沖縄）」「問い」「対話②」「結論」）を考える。
- ・これまでに培ったインタビュー、映画制作のスキルを活かし、協働作業のもと各グループで第2作ドキュメンタリー映画「ふたつの対話」を制作する。

※2017 全国海洋教育サミット「ポスター発表」で発表を行う。

※2017 海洋教育サミットに参加し発表を行う。

時	学習活動	指導上の留意点
1	オリエンテーション、授業説明、アイスブレイク	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の概要を説明。 ・生徒同士の関係構築のためのアイスブレイク。
2	「海と人との関わり」 ウェビング①	<ul style="list-style-type: none"> ・「海と人との関わり」を探るテーマを各自が設定するために、海と自分との関係を軸としたウェビングの実施。 ・図書館での情報収集。
3	「海と人との関わり」 ウェビング②	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが描いたウェビングマップを集め、3、4年生各学年のグループにてウェビングを展開。他者の考えを共有し、自分の設定テーマ、海と人との関わりから発展させたテーマに深める。 ・作成したウェビングをグループごとに発表する。 ・グループ（協働）から自分（個）の課題テーマを設定し、5W1Hに整理する。
4	コミュニケーション・ツールとしての表現（ダイナミック琉球）Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄体験学習において沖縄の人々と関係を構築するためのきっかけの一つとして、パフォーマンス（を物語った歌とパフォーマンス

		<p>スを中心とした「ダイナミック琉球」の練習。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間との関係性、異学年での取り組みからの創造を学び考える。
5	コミュニケーション・ツールとしての表現（ダイナミック琉球）Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の練習からパートごとのパフォーマンス（身体表現）練習。
6	コミュニケーション・ツールとしての表現（ダイナミック琉球）Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ（協働学習）から全体練習へと展開させたパフォーマンス（身体表現）の練習。
7	インタビュー対話 WS①	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー撮影の体験を通して、インタビューとは何かを考える。 ・はじめにカメラなしで「趣味について」のインタビューを行う。二回目にカメラを入れ、相手に聞きたいことをインタビューする。 ・単におしゃべりのように話を聞くのでもなく、答えを引き出そうとして聞くのでもなく、正面を向き合って話を聞く、すなわち＜対話＞することを目指す。
8	インタビュー対話 WS②：「＜聞く＞ということ」	<ul style="list-style-type: none"> ・＜聞く＞ということをテーマに、前時に撮影したインタビュー映像を見返す。 ・教材に東北伝承民話の語り手と聞き手を撮影したドキュメンタリー映画を取り上げ、鑑賞した後で、グループごとに映画の感想をインタビュー撮影する。 ・自分が聞いた相手の感想をワークシートにまとめる。 ・人の話を聞くことの難しさ、大切さについて考える。
9	<p>インタビュー対話 WS③：「＜撮る/撮られる＞ということ」</p> <p>沖縄体験学習の事前学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・＜撮る/撮られる＞ことをテーマに、前時に撮影した映像を見返す。 ・被写体の立場から書かれた資料や映像を通して、カメラの「暴力」と、そうであるからこそ有する可能性について考える。

		<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄体験学習の準備。 各活動リーダー、挨拶担当者、民泊部屋割り、などを決める。
10	沖縄体験学習の準備	<p>(4年生のみの活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイナミック琉球の練習 ・沖縄についての知識を深める。 ①沖縄のビデオを見る。 ②沖縄と海との関わりを考える。
11	夏休みの課題説明・沖縄体験学習準備	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄体験学習の準備。 ・夏休みの課題の説明 ①各自が設定した「海と人とのかわり」を探るテーマについて、保護者にインタビュー撮影をしてもらう。 ②沖縄でインタビューするテーマについて問いを深める。
12	沖縄体験学習準備/インタビュー対話撮影の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト撮影の練習。 ・パフォーマンス（身体表現）の練習。 ・映画「ひめゆりの塔」の鑑賞。 ・時空間を越えた中で、現在の自身について考える。
13	沖縄体験学習準備/インタビュー対話撮影の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題の上映と振り返り。
	沖縄体験学習（3泊4日）	※上記、沖縄体験学習内容を参照
14	<p>沖縄体験学習のまとめ</p> <p>振り返りとしての「心の表出」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習のまとめとして、関係者へのお礼の手紙、撮影映像の鑑賞。 ・沖縄での体験を振り返り、心の中の整理と自己を表現するために、色や形の意味を考えて描写し、「心の表出」を行う。
15	心の表出、発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄で感じ考えたことを絵として表出し、一人一人が描いた絵の意味や、使った色の意味を発表する。
16	銀杏祭準備（開会式、展示物作成）	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式でこれまで行ってきた授業について発表するための準備。 ①パワーポイントの作成 ②表現「ダイナミック琉球」の練習。

		③授業内容のポスターの作成
	銀杏祭（開会式）	
17	インタビュー映像作品「第一の対話」の制作①	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄で撮影したインタビュー映像（素材）を見直し、対話した相手から「何を受けとったか」を考える。 ・素材の内容をカードに書き出し、「自分が受け取ったもの」を表現するための構成を、カードを選択し、並べながら考える。
18	インタビュー映像作品「第一の対話」の制作②	<ul style="list-style-type: none"> ・構成を考えたのち、パソコンにて編集作業を行う。 ※全 5 分の映像として完成させる。
19	インタビュー映像作品「第一の対話」の制作③	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンにて編集作業を行う。 ・インタビュー映像作品の完成。 ・完成したドキュメンタリー映像の解説を書き、鑑賞冊子を作成。
20	インタビュー映像作品「第一の対話」の上映会①	<ul style="list-style-type: none"> ・二本目に作る映像作品についての説明を行い、上映される作品の見る意図を説明。 ・完成した映像作品の上映会。 ・鑑賞した感想を発表し、お互いの考えを共有する。
21	インタビュー映像作品「第一の対話」の上映会②	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した映像作品の上映会。 ・鑑賞した感想を発表し、お互いの考えを共有する。 ・専門家（映画監督）からの講評。 ・上映作品の中から、自分自身で深めていきたい作品を選択。 ・ふたつめの作品制作 3～4 人からなる全 7 グループの決定。
22	テーマインタビューの見直し、生徒同士話し合い問いの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・協働で制作する映像作品「ふたつの対話」（全 13 分）についての詳細説明。 ・グループごとに選択したインタビュー映像作品を見直したのち、互いにインタビューをしあい、各々の関心を共有する。
23 24	「第二の対話」インタビュー相手の決定、依頼①	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで選択したドキュメンタ

	「第二の対話」インタビュー相手の決定、依頼②	<p>リー映像を基に、一つの大きな「問い」を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 立てた「問い」について話を深めるに適した人を選定し、取材依頼を行う。 <p>※インタビューを行う内容（問い）に専門知識をできるだけ持たない人を探すようにし、その人から正解を聞くのではなく、その人自身の考えを聞けるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディレクター、カメラマン、インタビューをする人の担当者を決める。 <p>※それぞれの役割から映画制作は完成されることを学ぶ。</p>
25	「第二の対話」インタビュー相手の決定、依頼	<ul style="list-style-type: none"> • 取材依頼を行う。インタビュー撮影実施時の役割分担についての説明。
26	「第二の対話」インタビュー撮影	<ul style="list-style-type: none"> • ふたつめのインタビュー映像の撮影。 <p>※取材相手により、訪問する、または来校いただくかを決定する。</p>
27	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作①	<ul style="list-style-type: none"> • ふたつめのインタビュー映像撮影について感想の共有。 • 撮影した映像を見直し、素材の内容をカードに書き出す。
28	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作②	<ul style="list-style-type: none"> • ワークシートを確認しながら、グループ内で「(問いの)前提」、「(ふたつめの)問い」を共有。 • 「自分たちが受け取ったもの」を表現するための構成を、カードを選択し、並べながらグループで考える。
	日本海洋教育サミット ポスター発表に参加	
29	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作③	<ul style="list-style-type: none"> • 役割分担を行い以下の作業を行う。 <p>①パソコンでの編集作業</p> <p>②「前提」と「問い」の自分たち</p>

		によるインタビュー撮影。
30	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作④	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふたつめの対話」の映像を編集したのちに、グループで見直し、再編集点の検討を行う。終了後、「前提」と「問い」の編集を行う。
31	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の制作⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・全素材をつないだのちに、グループで見直し、細かい点を編集し直し、映像作品を完成する。 ・完成したドキュメンタリー映像の解説を各グループで書き、鑑賞冊子を作成する。
32	インタビュー映像作品「ふたつの対話」の鑑賞会授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふたつの対話」全7作品の上映。 ・各作品について感想を書く。 ・最も印象に残った作品を一つ選び、その理由を説明。 ・それぞれの感想を発表し合い、お互いの考えを共有する。 ・専門家（映画監督）による講評。
	「海洋教育サミット」 海洋教育パイオニアスクール・プログラム「単元開発部門」報告会の開催	
	校内 課題別学習発表会	
外部連携 / 教材等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京大学海洋教育促進研究センター（田口康大先生） ・ 映像関係者（福原悠介） 		